

原小学校コミュニティ・スクールだより



～やさしく 強く やりぬく子～ 発行日：令和8年7月10日 〈NO.5〉

3年生が、アイマスク体験(6/23)・点字体験(6/29)・手話体験(7/6)をしました

3年生は、総合的な学習の時間で「福祉」をテーマの一つとして学習しています。6月2日(火)には「きよさん」こと吉川清代江^{きつかわ きよえ}さんを招いて車いす体験の学習をしましたが、引き続いて23日(火)にはアイマスク体験、29日(月)には点字体験、7/6(月)には手話体験を行いました。どの体験も東広島市社会福祉協議会の協力により実現しました。



〈アイマスク体験についての話を聞いています〉



〈ガイド役と一緒にアイマスク体験〉



〈点字についての話を聞いています〉



〈点字表を見ながら点筆で点字を打っています〉

手話体験では、前半はろう者の方にまず、「手話は大切な言葉である」ことを教えていただき、そのあと「聞こえない人に呼びかける方法」について考えました。落とし物を知らせる場面では、後ろから肩をトントンとたたいて知らせる、聞こえない人の前に回って落とし物を見せる等を実際にやってみました。知らせる時には相手の目を見て伝えるとよいことを教えていただきました。続いて聞こえない人可以ること、できないことのクイズに○か×かで答えました。

Q1：電話で話すことはできないが、メールやラインで連絡できる⇒ 答え○

Q2：レンジのチンの音、冷蔵庫を開けっぱなしの時の音などは、聞こえないので不便だ⇒答え○

※聞こえなくても目で見て気づくことができる便利な道具があるので大丈夫

Q3：玄関のピンポンは聞こえないのでお客さんが来ても分からない⇒ 答え○

※腕時計型受信機が振動と文字で教えてくれるので大丈夫

Q4：聞こえない人は、目覚まし時計を使わない⇒ 答え×

※目覚ましの音の代わりに振動でおしえてくれる機器があるので大丈夫

Q5：テレビの音が聞こえないので、テレビは見ない⇒ 答え×

※TV用リモコンで字幕ボタンを押して利用する

※番組欄の「手」のマークのある手話放送を利用する

Q6：音で知らせる火災報知器がなくても、聞こえないので気づかない⇒ 答え○

※腕時計型受信機により警報等の情報は得られるが、日ごろから隣や近所の人との人間関係を築いておくことで緊急事態を知らせてもらえる

後半は、自分の名前を手話でどう表すかを一人ひとり教えていただき、手話による簡単な自己紹介を体験しました。その他、ろう者や難聴者の方が周囲に自分の状況と必要な助け方を知らせるためのSOSカード(ヘルプカード)、聴導犬は全国に約50頭、盲導犬は全国に約750頭いることなども教えていただきました。

児童にとっては、とても貴重な学習、貴重な体験の時間となりました。



〈ラーニンググループで手話での話を通訳付きで
聞いています〉

〈聞こえない人に呼びかける方法を実践しています〉

